

日本の職人による、
日本の技。



松上さんのバイオリン工房は南アルプス市の山々が見える絶好のロケーション。自然と対峙し、物造りに邁進する。

バイオリン作家

松上一平

[南アルプス市上宮地]

制作者によって、微妙にカーブや膨らみなどが違ってくる。作業の精度や技術、そこが音に全て影響し、オリジナルの独特の良さが生み出される。材料も産地や乾燥の程度によって大きな違いがあります。年数が経過するほどに味わい深さが増すのもヴァイオリンの魅力。



現地での表彰式の様子。連絡後、実感のないまますぐに日本から飛び立った。それだけに受賞の瞬間はなにものにも代え難い思い出となった。

職人の腕前がよく現れるといわれるカーブや膨らみ。基本的に全て一人で作業は完結する。制作知識はもちろんだが、木工の基本的なことや、刃物など道具の手入れに加え、制作に使う特殊な道具を作ったり作業に慣れる事も非常に大切。バイオリンのほか、ピアノも制作する。



年間で生み出せるバイオリンは手づくりのため、そう多くはない。ひとつひとつが彼の手の感触で彫りだされ、造形美が生み出される。

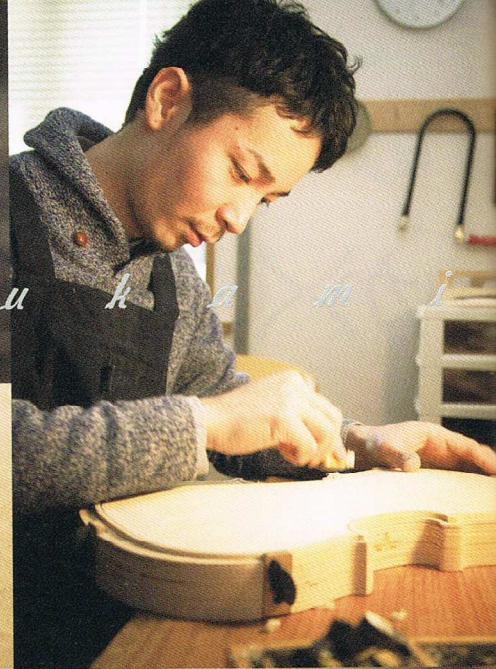
世界最高とされる名器の作者の名を冠した「アントニオ・ストラディヴァリ国際バイオリン制作コンクール」。作家にとって最難関といわれるそのコンクールで、若手作家に贈られる「シモーネ・フェルナンド・サッコーニ賞」を日本人で初めて受賞した松上一平さんは、南アルプス市の出身です。受賞した作品は、南アルプス市の自宅にある小さな工房から生まれました。

I p p e i M a t s u k a m i

Minami Alps City
Violin Producer

弦楽器制作の国際コンクールで
若手最高位「サッコーニ賞」受賞

松上一平さん



富士山を望む高台にある閑静な住宅街。その一角にある自宅2階の一室が、松上さんの工房です。

大量の木くずが散る8畳間。作業机の上には刃物などの道具類がずらりと並び、壁には細かい数字が書き込まれた設計図が貼られています。

机の前に座り、コンマ数mmの単位で板面のアーチを黙々と削り出していく松上さん。削っては手で確かめ、確かめてはまた削る。繰り返されるその地道な作業から、美しいバイオリンやビオラが生み出されます。

バイオリンを習い始めたのは10歳の時。高校3年になり進路を考えていたころ、バイオリン教室の先生に連れられて東京都内の弦楽器の工房を見学を訪れたことが、作家の道を歩むきっかけでした。

「幼い頃から工作や図画が好きで、将来はモノづくりをしたいと考えていました。工房で白木のバイオリンを見た時、シンプルな構造に秘められた繊細さに魅かれ、おもしろそうだなと思ったんです」。

高校卒業後、この工房に弟子入りするとともに、都内の専門学校にも入学。3年余り修業を重ねた後、故郷の南アルプス市に戻り、自分の工房を開きました。

自宅の工房で1人制作に取り組み始めた当初は「自分にしか作れない個性ある楽器を作りたい」と意気込んでいましたが、思うようにできず、どう進むべきか思い悩む日々を重ねました。「普通のバイオリンを作りなさい」。進む道が見えてきたのは、恩師の言葉がきっかけでした。

「普通とは何か、バイオリンはどうあるべきかを、いつも自分に問いかけながら制作していま

す。普通とは、自然な美しさだと感じています。名器と呼ばれる楽器には、共通して自然な美しさを感じることができます。それは個性ではあるけど、不自然なものではないんですよ。そんな自然の美しさを求めて作っています」。

「普通」である自然の美しさを追求した結果として個性があるのだろうと、今は感じているといいます。

松上さんがこれまで制作したバイオリンにはすべて、名前とともに「YAMANASHI JAPAN」の文字が記されたラベルが貼られています。

松上さんにとって、ふるさと南アルプス市とは？「安らぎをもたらしてくれる大切な場所ですね。この地で制作に取り組んだことが、自分をいい方向に導いてくれたと感じています。これまで生きてきたすべてが、今の僕につながっているんですよ」。

ふるさとの地に見守られながら、自らと向き合い、葛藤しながらも自分の信じた道を真つぎに歩んできた松上さん。その結果として獲得した、30歳以下の若手作家が出品した中で最も優秀な作品に贈られるサッコーニ賞の受賞は、これから歩いていく道もしっかりと照らし出してくれたといいます。

「『これまで自分がやってきたスタイルでいいんだよ』と言われてきたように感じています。それと同時に『もっと上を目指しなさい』というメッセージももらったと思っています。これからもサッコーニ賞の名に恥じない制作者を目指して、理想の『普通』を追い求め続け、本当に自分が納めできる楽器を作っていきたいと思います」。

世界の舞台に大きな一歩を踏み出した松上さん。その未来は限りなく広がっています。

自然の美しさを感じる
「普通のバイオリン」を追い求めて